京城新報

●新聞料 ▲一部二錢 ▲一ヶ月前金… ▲三ヶ月前金… ▲六ヶ月前金… ▲一ヶ年前金…
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 三月 廿五日
發行兼編輯人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

韓國に働きたる人物 其十五

警務局長山座圓次郎（下）

▲山座と云ふ男は、斯く亂暴な擧動もあるが、其奇矯飄逸の男が、御醫者様でも、草津の湯でもと云ふ、戀の病に罹つたとは、甚だ滑稽でないか、それは渠が散歩の時か何かに、嬌艶楚々たる一令嬢を見て、恍惚として之に戀を起したのである、

▲其後と云ふものは、何にも手に附かぬ、眠れば空恍、醒れば幻と云ふ騒ぎで、暫らくは戀に煩悶した、男子に世に生る、望む女を女房にすることが出來ぬ樣な意氣地がなくてはだめだ、夫れにしても彼女は何處の娘だろうと段々尋ねると、故神鞭知常の令嬢であることが分つた、

▲そこで渠は考へた、神鞭は知らないし、人を頼で結婚を申込ふか、如何にせばやと考へた末、猛然蹶起した、寧ろ自身に出掛けて貰つて來ようと、直に神鞭邸を訪問し心事を有の儘に披瀝して、令嬢を宿の妻に貰ひ受けたいと申込だのである、

▲流石の神鞭知常も吃驚した、が其の奇矯磊落なる渠の行爲が氣に入た、令嬢よりも、爺が先きに渠に傾倒した、併し本人の心を聴かねばと云ふので、令嬢に聞くと、之も淡泊でれ父樣さへ宜しいと思へば異存はないと云ふので、談判は直ぐに纏つたのである、

▲今の山座令夫人は、斯の如くにして得たる渠が戀女房である、この戀女房は中々貞淑で賢夫人の聞へがある、

▲閑話休題、桂内閣の組織せらるゝや、小村が外務大臣の椅子を襲ふに至て、小村は直に渠を呼で政務局長としたのである、京城時代より、小村には痛く推服し居つたのである、處が今度は大臣としての小村が特に呼でくれたるは、全く知己なりと更に感激して、飽迄小村に盡さむとの決心を起したのである、

▲渠は兎に角外務大臣の卵である、自重して手腕を練磨すれば、或は大臣たることは敢て難くなかろう、或る點に於ては小村より優るやも知る可らすである、

▲渠はポーツマス談判のときも、小村の腰巾着として、寧ろ相談相手として随行した、此談判に於て小村に功勞がありとすれば渠も其功に與つて居る、度胸の點に於ては、小村よりも上かも知れぬ、小村も渠も今の外交官中では、決斷の早い明らしい方である、

▲渠は今、決斷の鈍い、温厚なる林董の下では肝癪に障ることも多からう、まづ々々と自重して大成を期する心懸が肝要である

●拓殖會社設立準備

東洋拓殖株式會社の設立に就ては今後政府の任命する設立委員の手許に於て定款を作成し株主を募集したる後設立の認可を得ざる可からざる次第にして設立委員は韓國政府に於ても亦之を任命せざるべからざるものなる其一方に伊藤統監は僅に歸任したるに過ぎず今後尙は韓國政府と種々なる打合せを要するのみならず韓國に於ける民間有力者中には拓殖會社の趣旨を誤解して其設立を喜ばざる者あれば先づ第一に日韓兩國協同して韓國の開發を期せんとする同會社の目的より了解せしめて其疑惑を解き然る後に進んで株主たらしむるの必要もあり旁々設立委員の人選決定して愈々任命に至るには今後尙は一ヶ月位の日子を要し其人數も少なくとも五六十名以上となるべく是等は株主募集の便利上、實業家、東洋協會員等より選任せらるゝ事ならんも目下尙は決定に至らず而して總裁以下副總裁、理事監事等の任命は會社の設立認可を得たる後の事なれば是は早くも本年十月頃となるべく從て總裁の人選に就ては種々の世評あるも實際には未だ何人とも決定し居らざるべしと云ふ

●暴徒討伐情報（軍司令部着）

△京畿道長湍郡守備隊より出せる下士以下七名は四月十日夜九化場東南約一里の地に宿泊中なる賊を襲ひ其一を殪す

△金化守備隊より出せる討伐隊は十六日加平西方約二里の地に於て約三十の賊を討ち首魁以下四を殪し二を捕ふ

△江原道珍富守備隊長以下七名は十六日同化南方約五里に於て約三百の賊と交戰し之を潰亂せしむ賊の死傷首魁以下五十七小銃若干を鹵獲せり

△元山守備隊より出せる兵卒九名は十七日同化西方約六里の地に於て約三十八の賊と戰ひ其六を殪す

△江原道洪川守備隊は十六日同化南方約三里の村落檢擧中潜伏せる四名の賊を捕ふ

△慶尙北道醴泉守備隊は十五日同郡内に於て賊徒と氣脈を通じつゝある兩班（韓國門閥家にして鹵簿の家柄）二名を捕ふ

△全州守備騎兵中隊より任實方面に出したる騎兵討伐隊は高濱北方三里の地に於て約三十の賊を攻撃し其三を殪す

●羅州の賊狀

羅州附近敗殘暴徒は今や殆んど强盜と變じ監視なき村落を荒し銃器又は民財を掠奪し或は勢力の挽回に努めつゝあるも三十名と纏りたるものなく盡は山里に潜み夜間の行動を採りて巧に我視線を免れつゝあり去月十三日賊魁金聿先鉻將文祥麟なる者匿名を以て羅州自衛團長へ宛て憲兵隊の銃器彈丸を奪取の上密送すべしとの脅迫狀を送越したりと又羅州郡居住民中耶蘇教信者新舊合せて三百三十八名天道教百四十二名侍天教百四十五名あり此等は何れも現下の政策に反對を唱へ暗に暴徒に聲援を與ふるの嫌ありと云ふ

●茂朱の賊狀

全羅北道茂朱郡憲兵分遣所新設以來日々各方面に偵察隊を派遣し賊徒の搜索に勉め亦村民を慰撫し各自の業務に勉勵することを勧誘し邑内を間斷なく巡回せしめ警戒を嚴にするを以て近時良民の被害少なく民其堵に就き憲兵を信頼し亦尠からざる便宜を得つゝあり而して郡邑を距る八里蠻路險惡を加ふる山谷のみなれば時々賊徒出現するもの〻如く其他は一般に平穩なり之より先客月廿八日邑内に賊來襲税務主事を傷け公金百五十餘圓を掠奪したるに付村民の風說を聞くに賊徒等は始終税金に着目し時期あらば之を奪んと豫め計畫しつゝありし際三十日には憲兵來り駐屯するを探知し突然侵入し此行爲を爲したるものなるべしと又自衛團組織に就ても郡内は頗る難事にして目下郡守不在なると遠隔の二三は未だ秩序回復せざる等より躊躇しつゝあるも郡主事に再三交渉勧誘したれば其成立も遠からざるべしと

●三水郡の賊魁

咸鏡南道三水郡（長白山麓）主事の情報に依れば同地方に於ける賊徒首魁董基必は誠心誠意歸順を希望し且つ三水駐在韓人巡査黃泰潤は歸順の件に付彼れより會見を求められ去る四月六日三水郡德基洞（三水の南方約二里）に於て董基必と會見したるに彼等は丁寧に之を迎へ誠實歸順せんとする意思を述べたりと因て咸興憲兵分隊惠山鎭分遣所長は同地警察分署長と協議し一應彼等に會見を求むる筈なりしが四月十一日午後十一時頃賊徒約二十名三水郡高巨離（惠山鎭南約三里）に來襲當時同地に出張中なりし三水駐在韓人巡査朴在順同金慶澤の宿泊せる民家に闖入し朴在順を現場に銃殺し金慶澤は辛ふじて逃れ翌十一日朝惠山鎭に歸來せり賊は巡査の携帶せる金品を奪取して三水方向に引上たる事實より察するに彼等は誠實歸順の意思なく之を口外するは何等爲めにする處ありて然るものならんと目下三水地方に出張せる賊徒は約二百乃六十名にして其中首魁と目せられ居るものは董基必の外尙四名あり何れも三水郡のものなりと云ふ

●賊食鹽を燒燬す

四月十八日午後八時頃興城郡南衙禮成江里に賊十二名來襲し村長朴基淳を縛し銃を提供すべしと脅迫し尙同村小使白鶴天に船主宿屋に道案内すべきを命じたるも老年の故を以て夜間歩行困難なる由を告げたるに之を不都合とし毆打し右胸部に打撲傷を負はしめたる上尹商鼎の宅前に堆積しある同人所有に係る鹽百八十五俵に放火遂に之を燒燬し歸路同村劉煮賓商崔益祚方に於て飽食し其代金の支辯も爲さず翌午前三時頃豐德郡方向に逃走せり

●外國貿易旬報（四月中旬關稅局調査）

區分	本旬分	一月以降累計
輸出品價額	四四〇、一六六圓	四、一七一、三四六圓
輸入品價額	九四四、〇三三	一〇、四三三、五二八
合計	一、三八四、二〇〇	一四、六〇四、八七四

右貿易額の港別左の如し

港名	本旬 輸出額	輸入額	計
仁川	六七、四四八	四四三、一〇六	五一〇、五五四
釜山	九四、四三五	一七三、四六一	二六七、八九六
元山	四七、〇七四	五〇、八五一	九七、九二五
鎭南浦	七八、九八〇	八二、六二一	一六一、六〇一
京城	—	九五、二五五	九五、二五五
群山	三六、八二八	三三、三三二	七〇、一六〇
木浦	五三、〇九九	一八、四三七	七一、五三六
馬山浦	二五、七八七	八、一八二	三三、九六九
城津	五、一七五	四、八一五	九、九九〇
新義州	三一、三四〇	三三、五一四	六四、八五四
淸津	—	三、四九六	三、四九六
計	四四〇、一六六	九四四、〇三三	一、三八四、二〇〇

輸出重要品表

品名	本旬分	一月以降累計
米	二六、二二四	一、八九七、七〇一
大豆及小豆	一〇四、九二三	一、二四四、一九九
鮮魚、乾魚鹽魚	四四〇	一六八、一三三
牛皮	二〇、八八〇	二一七、三三五
人蔘	—	三六五
棉花	二、九五六	六二、四二〇
生牛	二四、七六四	二七九、六六四

輸入重要品表

品名	本旬分	一月以降累計
食鹽	七、八九三	五〇、八二〇
砂糖及精糖	三八、七二〇	一九一、二五六
淸酒	一一、九〇六	一四〇、五六七
石油	一五、三三一	一〇一、四一五
打綿	一、〇九七	四〇、八一九
綿織糸	七二、八六九	六四五、二六〇
生金巾及シーチング	二八、三六八	一、〇五〇、七七〇
晒金巾	一〇、九九七	四七〇、八二九
日本木綿	三〇、三六四	三七二、九〇一
麻布	七二、八〇八	一七九、九八三
絹布	三八、四五八	四九〇、四八六
紙	二〇、九九二	二〇四、八二四
石炭	三三、六六五	一三八、一三九
熟鐵	一三、六〇九	一一三、八〇三
煙草（葉卷を除く）	四六、七〇三	四四一、一九四
木材及板（鐵道枕木を併す）	三八、七五九	六六八、四七三
セメント及石灰	二、七八〇	三七、一五四
マッチ	六、四七六	九七、一一三

佛教教師に望む

讀者文壇 投書歡迎

晩石

△小供の衣服は大人に適せぬ、進步した現代には舊式方法は適せぬ、佛教の主眼本意は何時でも同一であろうけれど、說法の法方は改めて時世に適する樣にしてもよかろう、

△或る夜某寺に聞法に行た、法師が浪花節的說教の最中であつた、

△元來說教する所以は法を說て人に聞かしむるのであろうに、其の法師は聲のつかいわけのみして居つた、

△七十八十のジーさんやバアさんは其を聞きなれて居るから、あれでもイヽと思ふのか知らぬけれど、我等は眞面目に聞てをることが出來なんだ、

△昔の歌とか孝子の行爲とかを聲のつかいわけで說いて居るのを聞ては吐を催すばかりであつた、法は說かすに聲のつかいわけで一席終つた、

△如此か佛教の本意主眼であるなれば仕方がないけれど、若し、眞面目に法を說くのが眞の說教であつたなれば、其ときの所謂說教はウソ說教であつた、

△法師に望むのは此處だ、少しく佛教の眞意が說てもらいたい、其說き方を改良してもらいたい、あの方法より外にないとすれば其迄だけれど、得べくは改めてもらいたい、

△もし老人が三四十集るのを以て佛教の盛大とし、信者の後繼者のないのを勢力とすれば兎も角も、佛の大慈悲が十六衆生にありとすれば、十六衆生の一部である青年男女も喜で聞く方法によりて說教してもらいたい、

△キリスト教會に行て見ると老年も青年も喜で聞法してをる、佛教教會に行くと老人のみ坐て居眠半分で聞てをる、此れにはどを云ふ理由であるか、約言すれば說法の方法がよくない爲であろう、

△青年男女に寺まゐりを誘ふと、多の者が必要がないと答ふるのである、而して彼等は寺まいりをせないのである、如此が故にだん〳〵彼等の頭より眞の寺てふ念が去りつゝあると同時に、用なきものは寺である。と云ふ念が生ずるのである、

△今にして、青年がよろこんで聞法する方法を執らぬならば、今後十年を出ですして佛教は堂佛教となるのである、

△佛教々師、如何にして釋迦遺方の本分を盡さんとする乎、

△佛教々師よ、及べくだけ早く說教の方法を改めて十六衆生の喜んであつまる寺を畫き出せ、七條五條のピカ〳〵法衣でゴマカシ、長袖の法衣が道德家眞の宗教家であると云ふゴマカシ裝飾を除き去れ、浪花節的說教を廢し、善良なる方法を執れ、

△法衣や聲のつかいわけでは吾人は信仰の人たることは出來ぬのである、

△佛教の師よ、少く眞面目に法を說き、十六衆生をして喜ばしめよ、今の世は二十年前とは進步してをるなり、五十年前とは進步してをるなり、然も二十年三十年と同一方法を以て說法するは愚であることを覺悟し時世に適し世の一切が佛化するに至り易き方法を以て說法せよ、

小說 新不如歸（二）

篠原嶺葉著

播州須磨の浦なる、唯ある伏屋の門口に立つて、

「少々物を尋ねますがね、近頃此海邊で毎日のやうに釣をしてる外國人が居ると云ふ噂ですが、何の邊でせうか、若御存じなら聞かせて貰ひたいものです。」

と云ふは、軀幹のすらりと高い、肉の引締つた筋骨の逞しい、色こそ此濱邊の漁夫の如く澁紙色に焦げて居るけれど、何となく凜乎とした樣子が眉宇の間に現れて居る。

「それはな、ツイそこの前ですがな……」

云ひつゝ素足のまゝ門口に出たは、三拾四五とも見ゆる獰猛の若者で、尙も詳しく教へんとした口を俄に噤むで、樣子ありげに其人をつく〴〵と眺めて居つたが、

「大きな巖の蔭になつて居りますから、些と見た位ではなか〳〵知れ惡いです、御用が在んなさるなら、私が案內してあげますと云ひてまた暫々と顏を眺めて居る。

「いや、それは親切に有難いが、別に逢に來たと云ふ理由ぢやない、唯然ういふ噂を聞いたから、この邊に來たを幸ひ、些と尋ねて見たんだ、では那の濱邊に見ゆる牛の寢たやうな形をした巖のある邊かね。」

「はあ、あの巖から三つばかり向ふの巖の蔭です、近所まで案內爲ませう。」

「いや、もう大抵見當も分つたし、逢はなきやならんと云ふ理由でも無いからぼつ〳〵尋ねて行つて見やう、どうも御邪魔爲ました。」

と、輕く禮を述べて立去らうとすると、若者は極惡しさうな顏色で、

「若し旦那さん、些とお待ち下さい、間違ひましたら鄭重にもお詫致ます、どうも先刻からつく〴〵御容子眺めて居りますと西脇少將閣下に生寫しで居らッしやいますが、若や西脇の若樣ぢやございませんか。」

意外の問にぎよッとしながら、

「然う云ふ御前さんは誰ぢや。」

「では、猶且西脇の若樣でございましたか私は岸野浪五郎と申しまして、今から丁度九年前、日清戰爭の當時は、徵兵適齡に合格して入營致しましたが、どう云ふ所が御氣に協ひましたか、少將閣下の御撰拔に預つて從卒に爲て頂きまして、內地で勤めになる頃は勿論、戰地へも出掛けなすつてからも、一時も傍を離れずお供を致しまして、講和談判が成立て凱旋なすつた時までも、御厄介になつて居りましたが、閣下のお供をした有難さに、これと云ふ目覺しい働も致しませんに、立派な勳章を頂きまして、此村から十四五人出た朋輩中で私一人が肩身が廣うございます、これと云ひますも、皆な閣下の御慈悲でございますから除隊になりました其後は、日外閣下にお願ひ申して頂戴致しました寫眞を神棚に祭つて毎朝拜むで居りました、ところがあちら云ふ部下に優しい閣下でありましたから、遼東半島を清國へ還すやうになりましたので、戰死爲たり負傷した部下のものに申譯がないとか仰やつて、御、御自殺なさつたと聞ましました時は……」

と語り來つて、涙をホロリと零し、

「若樣、私あんまり悲うて、た寫眞を眺めて、其當分は每日のやうに泣きました、奧樣を始め貴君方は、嘸、御、御無念でございましたでせう、れ、お察し申します。」

と、腰の手拭を鷲摑みに、落ち來る淚を拭ふのであつた。

◎家庭の娯樂用 辻蓄音器賃貸一席金五圓也

但し御希望通りの音譜貳打奏樂其他は壹打を増す毎に金貳圓增受す
別事に店員を派して其奏樂技術に當らしむ
遠隔の地は實費申受けの事

東京三光堂 韓國代理店 京城本町 辻屋 本店電二四八 支店電三六六

京城新報

時事偶感

本篇は本社の鋒岸が有志大會に於て爲したる演説の筆記なり

昔時チャールス王を廢して英國の政權を手中に收め偉大なる政事的事業を遂げたコロンウエルは斯く申す拙者の如く非常なる醜男であつた、彼或時出入の畵工に彼の肖像を描がしめしに畵工は主公の思召に叶へ御覺目出度たからんと欲して彼の醜き顏を非常の美男に描いた、コロンウエルは其畫像を一瞥すると同時に畵工を叱責した、其叱責した言葉は今に英國人の誇とする「余の顏は余の顏の通りに描け」と云ふのである。

先頃桑港に於て韓兇の爲めに暗殺せられたる故ステーブンス君は余が爲に米國以來十年の友人である、余は其友人が暗殺せられたるに就ては非常に憤り亦悲しんで居るものである、トコロで其ス君は本年の始め京城出發前留別會を開かれた、其留別會の席に於て韓內閣總理李完用君はス君に向つて友人として一の依賴の辭を述べた、其依賴の辭は下の如くである「我友ステーブンス君正に歸省せられんとす余は君に切に依賴す君歸米の上は大統領及び一般國民に向つて韓國現狀の有の儘を告げられんことを」と而るにステーブンス君は先月桑港に着し各新聞記者に告ぐるに韓國の上下が統監政治に悅服しつゝありと告げたツウである、之れ果してス君が韓國の現狀を有の儘に告げたものと云ふを得べきかドウか。

余は十年の友としてス君の奇禍に懼られたるに大に同情を有するものである、併し暴徒の騷ぎが益大きくなつて排日運動が益熾になる今日韓國の上下が統監政治に悅服しつゝありとのス君の言には異議を有するのである、ス君は果して李總理の依賴の通り有の儘を告げたるものなるや否や。

由來新聞記者の天職は事實の通り報道し公平に論議することである、懸値若しくは割引なき報道及び公平なる論議は實に尊重すべきものである、而かるに何事ぞ余が同業朝鮮タイムス及び大邱日日は報道と論議とに因つて奇禍に罹つたのである、タイムスは一銀行に關する記事に就て大邱日日は民長問題に就て前者は發行停止を命せられ後者は退韓處分を受けたのである、銀行や民長問題に就て新聞に壓迫を加へ退韓令や保安規則を振り廻はす我統監府はより以上の問題に就ては何を振廻はさんとするか憲兵を差向くるか軍隊を繰り出すか否々我國開闢以來我軍隊は正義の爲め以外に繰出されたる事なき事を以て其以外の者たるべきを信ぜんと欲するなり。

諸君玆に人あり見合用として寫眞を撮りたりとせんか寫眞屋顧客に阿ねりて本物以上の美男寫眞を作り之にて見合は濟まされいざ祝言の場合となつて寫眞に依つて欺かれたる新婦が本物の新郎の醜男なるに驚き逃出すこともあらんが新婦の失望もさることなるが新郎の失望は實に察するに餘りあるべきなり、玆に於て悟むべきは實に寫眞屋であるのである、而かるに奇怪千萬にも女子には其低き鼻や大きなる口乃ち道具立の揃はざる顏を持ちながら非常なる美人に寫さんことを寫眞屋に命じ自家の虛榮心を滿足せしめんと企てる者が往々あるのである併し此は男子の事にはあらず婦女子の事である世に虛榮に驅らるゝ者ほど淺間しき者はないのである。

昨冬伊藤統監及び其部下の大官數氏は東京に行き滯東中議會公衆に向つて韓國の有樣に就て極めて樂天的なる紹介を爲したのである、暴徒は鎭定に近かく經營は着々歩を進めつゝありと紹介をしたのである、余の友人にして曾て統監以下の韓國談を東京にて聞き近頃京城に來りたる者あり、彼は韓國の現狀が統監以下の紹介と大に異なれるを見て現に尠なからず驚きつゝあるのである、顧客に阿ねり餘計に利益を得んと欲する寫眞屋は別として有の儘を寫すのが寫眞屋の本分である、而して有の儘を報導論議するが新聞記者の本分である、而るに現下韓國に於ては有の儘が統監府に因つて歡迎されぬのである、否有の儘の報導を爲す新聞記者は壓迫を受けつゝあるのである、余は之に付て最早沈默を守つて居ることは出來ぬのである。

本夕の某辯士が言はれた如く若しも吾人が言論の自由を捨つることに仍つて統監政治が完全となり、我帝國が半島に對する最終の目的を達し得らるゝものならば余は言論の自由などは一時犧牲とするも決して憾なきものなり、然るに不幸にして現時の有樣に於ては吾人が言論の自由を保持して戰ふにあらずんば統監政治の完全最終目的の遂行は到底覺束なきなり而かるに我統監府は此の事にも吾人の言論を束縛せんと企つ余は斷々乎として言論の自由の爲に爭ふの念を禁ずる能はざるなり。

由來伊藤統監には二箇の異なれる性格あり一は立憲的にして一は專制的なり、而して其立憲的の方は韓人に對して人道主義となり懷柔政策となり、在韓外人に對しては門戶開放機會均等主義となつて現われて居るのである、而して在留十餘萬の邦人に對しては不幸にして專制的方面のみ發現され其證據として退韓令保安規則など云ふ惡法が置かれてあるのである、在留邦人は皆統監より非常なる檢束を受け何事にも自由發展を爲すことの出來ぬ樣になつて居るのである、今や韓人や外人は統監の人道主義門戶開放機會均等に對し悅服しつゝありや否や余の知るところを以てすれば韓人は人道主義を悅ばずして暴動排日を遣りつゝあるのである、外人等は門戶解放機會均等に嫌焉たりて不絕不平を洩しつゝあるのである公の立憲的方面の恩澤に浴しつゝある韓人や外人にして斯の如くである、公の專制的方面の發現にのみ常に接する在留邦人は決して公の政治を謳歌する譯は無いのである

アフリカのコンゴー自由國はベルヂー皇帝レオポルド陛下に因つて建國以來統治されつゝあるのである、而かも不幸にして同國の秕政甚敷國民は塗炭の苦しみを受けつゝあるのである、昨年英國デエリー、テリグラフの通信員は仔細にコンゴーの秕政を調查し之をテリグラフ紙上に於て公にしたのであるが、亦コンゴーの將來に就て公平に論議したのである、今や其反響として歐羅巴全土にコンゴー問題起りつゝあるのである、英國の如きはレオポルド陛下にして秕政改革を爲し能はずんば主權を他に移しコンゴー統治の任に當らしめんかと主張し居る位の次第である。

思ふに韓國統監たる伊藤公は其境遇に於て恰もレオポルド陛下に似たるものに非ざるなきか、余が謹みて統監に向つて言はんと欲するところの者は進んで完全なる政治を行ふことにあり若し能はざれば職を擲つて勇退せらるゝにあり、何となれば韓人も外人も特に在留邦人も悅服せざる所の政治を行ふ統監が其職に留まる事一日永ければ韓國經營の實を擧ぐるを一日後れしむるに外ならざればなり。

吾人新聞記者は彼のテレグラフの通信員と同じく事實有の儘を報導し之を基礎として論議するものである而かるに我統監は動もすれば專制的方面を吾人に向けて言論の自由を束縛し吾人をして韓國經營に貢献せざらしめんとせられつゝあるのである、若しも美人にして眞の美人ならんか其有の儘を寫されるも決して恐れぬのである、若しも伊藤公にして完全なる政治を行ひつゝあらば其有の儘を寫さるゝことを恐れらるゝ理由はないのである、レオポルド陛下と伊藤統監と何れが永く現地位を保ち得るかは今に於て大なる疑問である。

コロンウエルは醜男子である、併し彼は「余の顏は余の顏の通りに畵け」と畵工を叱責するの勇氣を持つて居たのである、我伊藤公にしてコロンウエルの勇氣を持たるゝとせんか決して吾人より言論の自由を奪ふの必要はないのである。

若しも町村市國に於て各一人の義人を有し居らば其町村市國は必ず榮ゆるのである、而かるに今の統監政治は如何、伊藤統監の部下は其數に於て決して少なしと云ふべからずである、然れども統監府設置以來已に二年有半不絕秕政の跡あるにも不拘公の部下より一人として未だ公の怒を恐れず其官職を賭してまでも公に建策し亦諫爭したるものあるを聞かぬのである、公とて決して神樣の如く萬能ではないのである、而かるに今日まで公の部下より一人の誠實なる建策者侃々たる諫爭者を出さゞるは官吏諸君の心臟が怪しまるゝと同時に公の不德を表明するのである、吾人新聞記者は韓國に在て現に統監に對して最も必要なる唯一の眞の諫爭者であり亦建策者であるのである、伊藤公たるもの須らく從來の態度を一變し吾人言論の自由を尊重し吾人の有の儘なる報道論議に向つて大に敬意を拂ふべしである。

紐育電報

▲元老院の開戰覺悟

米國元老院にて議案討議中多數の議員は比律賓群島の領有は强大なる艦隊を必要とするに依り現今の回航全艦隊を太平洋に置かざるべからずと極力辨論し今より十年を出でずして米國は一强國と太平洋に交戰する事あらんと豫言せり（二十三日東京經由）

東京電報

▲英國前首相逝去

英國前首相バロナーマン氏逝去の旨公電ありたり（二十三日發）

各地電報

▲水產技手殺さる

昨日延安郡金山浦附近にて統監府水產調查員松生技手及び護衞のため同行せる三隅、渡邊兩巡查並に韓人巡查二名の一行は暴徒三百餘名と海上にて衝突し激戰四時間にして賊二十名を殪せしに賊は海上船にて逃走す松生技手は即死し三隅巡查は重傷死に瀕せりとの急報渡邊巡查より當地警察署に達し延安守備隊に交涉の末兵十名及び巡查五名搜查のため急行せり（二十三日海州發）

雜報

●漢城最近の政界に就て

統監歸任以來未だ新方針に就ては堅く秘して世に示さず一般の觀測する處は統監は或程度に於て暴徒鎭壓を主として內閣の改造人材排置に多少の變改を見るに至るべしとの豫想各方面に起り之が爲めに漢城政界の裏面に於て著しき運動を見るに至れり

其の尤も著る敷運動としては統監は今回元老大臣を以て政務の中心と爲すべしとて金允植趙秉鎬李道宰申箕善氏等を遊說して內閣組織を企つるあり俞吉濬氏の如きは此の系統に屬せる有力なる策士とも謂ふべし

李夏榮氏は李完用氏との連合內閣を計劃し其中間に少壯の士を網羅し玄芬金晦秀李南熙の諸氏を排置せるあり又一進會は別に一進會を中堅とせる新內閣の企あり宋秉畯氏其首相として速に歸國を促がしつゝあり已に其勸告の爲めに使者急行せりとも云へり

趙法相は褓負商團を部下に直屬せしめ東亞開進敎育會をも合同せんとせり氏の此企望は位置保存に在るべし特に著しき現象は李允用兄弟氏間に起れる感情の衝突にして李允用には之が爲めに辭表を呈するに至るべしと聞く是れ最近の形勢なり然れども三日見ぬ間に何うなるかは我儕の知る處に非ず

●副統監平壤發

北韓地方巡視中なる曾禰副統監は二十四日朝平壤を發し安東縣に向へり

●韓國監獄署に就て

本年六月開廳せらるべき各地方裁判所所在地に新たに監獄署を設置せらるゝ事は既報の如くなるが同署の職員は直接に囚人を取扱ふものにして韓人を以て之に任ずるも差支無きが如きも何分新制度に慣熟せざるを以て典獄は日本人を以て之に充て以下看守長及び看守は日韓人中より採用する筈にて目下人撰中なりと云ふ又從來韓國監獄は罪人の懲罰を主義とし之れが改悛を圖り遷善せしむるの方針を取らず從て囚人の工作の如き僅かに草鞋を作るか又は掃除の勞務をなさしむるの外何等の設備無かりしも今後は漸次に日本に於けると同じく諸種の工作勞務に服せしむる方針なりと某當局者は語り居れり

●廣梁灣視察談

天日製鹽場經營の目的を以て大同江口の廣梁灣視察の爲め出張中なりし度支部財源調查局なる赤倉技師は一昨夜歸京せしが同氏の談によれば同灣は目下測量中にして其の詳細を語るを得ざるも概見する處によれば極めて有望なるものゝ如く灣內の廣袤約四千町步にして灣口は東南に面し其の直徑約一千間なれば此れに堤防を築くときは灣內全体を利用するを得又小規摸の經營をなして干潟のみを利用するも優に一千町步の鹽田を得べしと

●暴徒討伐情報（軍司令部着報）

△開城守備隊より出せる高畑大尉以下二十五名の討伐隊は四月十日開城東北約四里に於て賊二を捕へ其東北約二里に於て賊一を捕ふ尚同隊は四月十三日新溪南方約四里の漁火洞附近に於て賊六名を殪し約五十の賊を擊退せり

△開城守備隊より出せる藤江少尉以下廿五名は四月十三日市邊里西北方約三里の地に於て賊六名を殪す

●第一巡查隊の行動

開城方面に至る第一巡查隊中豐德方面に派遣せられたる第三班の報告によれば豐德郡附近は目下七八名乃至數十名の團体をなせる賊徒晝夜の別ちなく各所に出沒し掠奪を恣にするより住民堵に安する能はず他に移轉するもの多しと云ふ同隊は駐在巡查より銃器携帶の賊徒數十名江華島方面より來襲し昌村に集團中なりとの報を得十九日午後六時目的地に到着したるに賊の步哨は大聲警を彼等に傳へたるを以て約二十名の賊昌村後方の高地に據り一齊射擊を開始したるを以て直ちに應戰し約一時間の後突擊して潰亂せしめ逃ぐるを追ふて海倉浦に到る賊は數名の負傷者を扶けて船に上り順風に乘じて江華島方面に逃走せり此の戰鬪に於て獵銃一火藥七斤其の他雜品若干を鹵獲せり

●賊歸順者を銃殺す

陽根郡北面へ來りし賊を追跡の爲め急派せし憲兵上等兵六名の報告に依れば賊が北面上道に來りしは十八日にして六名なり各銃を携帶し洪川郡方面より陽根郡北面上道墨安より幾ひ門內東北麓に入り跡蹤不明となる想ふに砥平郡山谷方面に去りしものならん彼等は村內を通過せず山谷のみ步行を取りし爲め村民知る者なく山仕事の者のみ發見せり而して之れより曩十日首魁金泰洙は陽根郡北面に來り歸順者三名を拉去し二名は其后加平郡南面金岱に於て銃殺せられたりと

●赤十字及愛國婦人會彙報

△總裁殿下御寫眞御下附 大邱にては來二十八日赤十字社及愛國婦人會兩支部總會を擧行するに付韓國部長の禀請に依り總裁閑院宮兩殿下の御寫眞を御下附ありたり

△永登浦委員部發會式 愛國婦人會永登浦にては委員諸氏の盡力に依り日韓會員百餘名に達したるに依り本日午後二時より發會式を擧行する由にて本部よりも二三の役員夫人臨場する由なるが其次第は左の如し

一四月二十五日正午二時發會式擧行
二同日午後七時より本部役員の活動寫眞會開催
三會場 永登浦本町（停車場前）山は旅館
四式場順序
一開會の辭　二委員長の式辭
三來賓の祝詞　四會務の報告
五餘興
一琵琶　二福引
福引執行中シルコ、ビール、茶、御隨意御召し上りのこと
御土產及御茶受けとして折詰菓子呈上
終て隨意退散
六活動寫眞會　午後七時開會
注意
一會員は會員章を附すること
二服裝は可成常着の儘

●郵船の寄港に就て

郵船會社の浦鹽命令航路を淸津に寄港せしむるに就き同本社より遞信省に交涉したることは既報せし所なるが此程右交涉は終了し唯だ同省の指令を待ち居る迄になりたれば五月十七日橫濱出帆の弘前丸よりは必ず淸津に寄港することになるべしと云ふ

●爲國忘己碑建設

奧村五百子女史が爲國忘己の偉績を表彰紀念の爲め今回仁川委員部會員相謀りて女史に因緣淺からざる仁川大谷派本願寺別院境內に紀念碑建設の儀を決議したるが該碑の題字は畏れ多くも總裁宮殿下の御染筆を請ひ奉り尙は碑文は南條博士に依賴する筈なりと云ふ

●開進敎育會趣旨書

法部大臣趙重應氏が會長たる東亞開進敎育會は昨日其趣旨書を發表せり

●大同會支局の設置

大同會にては今回西署大平洞六十二統二戶に於て大同會商務支局を設置せり

●藤田軍醫監歸任

豫て南韓地方衛生狀態視察中なりし軍司令部軍醫部長藤田軍醫監は一昨日無事歸任せり

●井上雅二氏の歸期

宮內府書記官井上雅二氏は本日東京發歸韓の筈なり

●辭令（四月二十一日附）

統監府技手兼海事局技師　鬼一郞
任統監府技師敍高等官七等
任統監府技師敍高等官五等　松下重松

●學生行商旅行

神戶高等商業學校學生由利元吉、佐藤要、諏訪春太郞の三氏は試驗後の休暇を利用し韓國行商旅行を企て釜山大邱を經て二十三日着京浦尾旅館に投宿したるが二十四日には統監府會計課にて商品を陳列賣買せり尙一行は京城龍山仁川の間に約一週間滯在し遊覽旁行商し都合に依りては平壤迄赴き來月五六日頃歸校の豫定なりと

●グチ漁の好況

群山沖隔音島、蝟島、鹿島附近に於けるグチ漁は每年昨今の數日を以て何百萬の大漁をなす由なるが本年も其漁獲非常に多く玆一週間以前より仁川水產會社に輸送されたる分のみにても既に五十萬匹を越わたりと而して其の相場は一匹二錢內外なりと云ふ

●近事片々

▲有志 の政談演說會頗る振ふ辯士が熱誠に統監政治の秕點を攻むるや拍手盛に起る
▲在留 帝國民自覺の時は來れり輿論は終に統監をして心機一轉其非を自覺せしめむ
▲有志 演說の歡迎せられたるは統監政治の誤謬にして在留民の怨を代表せる證據也
▲假令 伊藤公退任するとしても其政策の誤を悟らば在任中は罪障消滅の供養を爲せ
▲統監 政治の秕政は公の與り知らざる者多からむ之れ諒すと雖も方針誤謬の結果也
▲幕僚 に公の心事を誤解する徒輩ありて往々累公に及ぶ幕僚の戒飾は忽にす可らず
▲退韓 命令發行停止の如き其一例ならずや何れの國でも俗吏の犬糞的仇討に困る也
▲暴徒 曰長谷川大將の頭顱を漆して盃とし伊藤統監の頸肉を膾にして花宴を開くと
▲懷柔 策を採り親切を盡くしたる上却て怨まれ頸肉を膾にする坏言は馬鹿な噺也
▲或る 暴徒の首領曰く伊藤を味方にし之を親分となし日本人を驅逐せんと甚說解也
▲無論 虛誕ならむも公が眞に韓民の味方と解せられ暴徒迄が利用せんとするに至る
▲味方 と必得心服するならば可なりと雖も之を利用し排日に使はむとは失敬千萬也
▲首相 完用亦た辭表を出さんとす果れ風雲觀望の結果愈々兄弟一致して示威運動か
▲重應 獨り踏止まり他の閣員連袂辭職せんとの事也愈々現閣崩潰の時は來る面黑し
▲京城 日報黑龍江鐵道を論じ首相ストリピンの豪語は最だと樂天的意見を發表せり
▲兩頭 鷲旗の睥睨の傲語は籏が極東侵略政策の復活なりアムール江岸開拓は看板也
▲アム ール江岸瘠地の開拓のみに多資を投する程露人は間拔ならず机上の空論可慨
▲土耳 古宮庭內輿地圖を掲げ中央に日章旗を畵き入紋を掩ふて遙に日本を追慕すと
▲土國 の修交條約今に纏らざるか速に君斯丹珍能保克に日章旗を翻翻たらしむべし
▲伊太 利土耳古の不得要領に怒て海軍の示威運動をなし漸く土政府讓步に決せりと
▲禪僧 西有旗亭の飯盛に器量も惡いがれ屁も大かい其僻た膳は能く据ると洒落れる
▲古稀 を過ぎたる老僧尙は狂歌でもぬたくらひさする元氣あり亦大黑の必要なきか
▲向島 の花見種々變裝隊あるも就中人目を引けるは江戶ッ兒藝妓の元祿風の花見也
▲新內 薬明淸元常磐津抔咽喉の秀でたるものを撰拔し編笠被ての行列流しは風流也

開城まで（二）　梅まど

驛前の待合屋に這入つて椅子に腰を掛けると茶を汲んで來る菓子を出す何か御注文はと問ふからビールに林檎なりともと命令を下すとチヨンガーが傍より袖を曳くから振り向くと

「私はビールは嫌ひです」

といふ

「韓人の好める犬の汁は日本人は賣らぬか何がよいか」

と尋ぬると日本のお菓子がよろしいといふ夫れならば澤山喰ふがよいと給仕の女に差圖して出させ自分は立所ろにビール一本を平げて今一本と思ひつゝ時計を見れば十時四十五分ヲット乘り後れては一大事とチヨンガーには先きに切符を買ふべく驛に走らせ早速に勘定を濟まして往つて見るとチヨンガーが出札口で口論をやつて居る何事かと尋ぬると

チヨンガー「旦那聞いて下され、開城まで乘車賃一人前一圓八十錢と掲示してあるから二人前三圓六十錢出すと一圓八十錢足らぬといふて切符を呉れないのです」

出札掛「此の人は韓貨を出したのです日貨一圓八十錢であるといふても夫れが判らぬのです」

チヨンガー「四月一日から時間も韓國時間となれば賃金も韓貨に改正せられたに違ひないのです夫れでなければ韓國本位の實が擧がらぬのです」

チヨンガー迄が統監政治を韓國本位など吐して屁理屈を捏ねる困つたことだと思ふもの今は一刻千金發車時間巳に迫れば馬鹿なこと言ふなと叱りつけ一圓八十錢を足して切符を買ひ駈け足にて架橋を渡り滊車の前に來ると危機一髮にて動き出したがこれに乘らいでなるものかと猿の枝に登るが如く廻りつきも辛うして車中の人となつた强將の下に弱卒なくチヨンガーも漸くにして乘り込み額の汗を拭いて居る滊車は間もなく龍山驛に着し此所に待つこと須臾にして發車したが後方に向つて進行するから又も南大門に逆戻りをするのではないかと思ふて車外を見廻はすと道は違つて居るから安心して尙ほも四方を觀望すると麻浦の市街が見ゆる船の帆も見ゆる此所はこの內一寸見て來たで繁華の樣も想像せられて懷かしい氣持もしたが滊車は一向頓着なくひた走りに走る

草山が瘡癒にでも罹つたかのやうに澤山さ凸起した所がある彼れは何かと聞くと墳墓じやと教ゆる夫れでは一度埋葬した限りで後は祭祀供養などいふことはせぬかと聞と

「韓人の祖先を祀るてとは禮に過ぐるさゝ言はんほどにて墳墓の如きは最も大切に保護し毎年十月初子の日（今年が戊の年なれば戊の日）家族一同墓前に會して祀るのです」

といふ夫れでも斯く累々として有る所の墳墓に一として標木もなければ一基の碑石もないが何を以て自分の先祖といふことを見別るのだ他人の墳墓と間違へることは無いかと聞くと

「兩班の家には族譜といつて過去帳の樣なものがあるのです是れに誰の墓は何山の何方にあつて何の所にあると明細に記してあるから間違ふことはないのです尤貧民に至つては此の族譜は無いが大抵記臆して居るのです」

チヨンガーは尙ほ語を繼いで

「墓に就て尙ほ可笑習慣があるのです日本にも有るそうですが巫といつて神の命令を傳へる女があるのです誰か死ぬると此の巫に何所へ埋葬するがよいかと伺ふと何所が宜いと敎ゆるのです時によると二里も遠方の地へ敎へられて困ることがあるのですが神の命令に背くことは出來ないから必らず其の所へ持ち行くのです此の春故大院君の墓を假葬せられたも此の巫の命令に因るので上は皇室を始めとして一般にこれが信仰せられてあるのです」

これは珍らしい話を聞いたが其の巫なる者は僅かに埋葬の地を指示するのみかと聞くと

「彼の本業ともいふべきものは祈禱です倘し病邪に襲はるゝことあれば先づ此の巫の家に馳せて病魔退散の祈禱を賴むのです其の外何でも彼でも此の巫に賴んで成就せぬことはないといふのです皇室のれ抱ゐの巫など、常に色々の祈禱をして居るのです此の頃は多分皇太子の無事で一日も早く歸國せらるゝやうに祈禱して居るのでせう」

と得意に物語る

●自廢の仕損じ（つゞき）　第一樓かほるの魂膽

逢ひたければこそ見たければこそ苦しい思ひをしてまで第一樓に上つた竹さんは生憎薰裙が病氣と聞きて顏さへ見せず聲も聞かざるに少なからず氣を揉むだが根が砂糖よりも甘い竹さんのこと別に薰が五つ紋の眼鏡先生と階下にて意痴話ついて居ることは夢にも知らで其夜は濟んだが夫れから後も竹さん相變らずセッセと通ふて居つた此の間梅と櫻を兩手に持つた花の薰さんの御得意蓋し想ひ遣らるべきである然るに竹さんは薰裙を何日迄も泥水の中に沈めて置くに忍び無く思ふので遂に身受けの相談を薰裙に持ち出した處が薰裙も去る者二つ返事で是非とも左樣して頂戴など竹さんの膝に凭れて好い加減に甘ゐたので竹さんの鼻は益々高くこれや誠に鼻の第一樓とも云ふべき程の濟まし方夫れでは辛かろうが暫らく待つて與れ玉ね我輩は今こそ斯く人の處に居候の身なれど之れでも故國には田もあり畑もある事故れ前を落籍す位の金は朝飯前にも調達は出來ると云ふて差當り鄕里に歸る旅費に差支ゆる故出來るなら薰さん戀しい僕の爲めおや無いか一時旅費だけ工面して與れないか鄕里に歸つた上にては二倍にも三倍にもして返すから決して可愛いれ前に迷惑は掛け無いからと其處は口巧者に說き附けて薰裙から大枚六十圓を出せしゆゑ其儘竹さんは國許差して返りしが其の後程經て竹さんより何の便りも梨の礫なるこそ道理實は竹さんの國許には借財こそあれ賣るに田も無く畑も無く世の中は生憎の者にて故鄕の父老迄が此の節は頓と開けて竹さんの口に乘せられず竹さん遂に目的を遂せずして再び握り墨丸のアンクワンと京城に立還りたり去れど薰裙は胸に一物竹さんが所謂明法學士である所から釁ひ金は出來なくても自由廢業位いをする手續は知り居るならんと其處は親切づくめれ爲めごかしに竹さん／＼と附け纒ふて遂に去る十四日の午後一時頃姐さん一寸其處迄と同輩衆の手前を誤魔化し竹さんの隱れ家なる前記鈴木慶太郎方の裏温突に潜み居り聽て自廢の手續をした上は後にて惡ひ事は竹さんの肩に負はせ其の身は例の五つ紋眼鏡先生と手に手を取つて隨德寺を極め込む魂膽最中を不粹な南部署の警官が睨め付けて斯の阿魔規則違反者奴と一圓九十錢の科料金を合財の底から振ひ出させた上第一樓主人に引渡したる爲めれ氣もじ樣薰裙の魂膽は女には相應ぬ越中褌と外れて目下大悄氣に悄氣居れりとは左もありなん左もさうずと察し申す（たはり）

●妓生と巫山戲て負傷す

各大臣が過日皇帝の射的に陪したる際度支部大臣高永喜氏が轉落して負傷したることは前號に記せしが今聞く所に依れば右は太皇帝の御催しにあらず隆熙帝が秘苑に於て花見の爲め催されたるものにて地方は暴徒横行して人民は今や塗炭に苦み國の亡滅は刻一刻に近きつゝあるにも拘らず氣候と云ふ春に廻り來りて寒鴉枯木の感わりし秘苑の木々は哀むべき國家の深淵に沈淪しつゝあるを知らず顏に花爛熳と咲き亂れたれば何も御存じなき皇帝には此狀態を見玉ひ嗚呼朕が世は太平なり之れより後苑に花の宴を催さん誰れかあるいざや其用意致せと嚴かに勅諚ありしかば侍從の面々コワ好い仰せ一段と面白う御座ろうと早速其用意をなし官妓は何某誰某數名の官妓に美酒佳肴を取揃へ御幸を待ち居りし中皇帝には皇后の玉手を携へさせられ各大臣扈從し秘苑に臨御あり官妓の御酌にて玉杯を傾けさせられ扈從の大臣へも賜はりたれば各大臣も同じく美人の酌なれば一段と甘く一杯又一杯と傾けたるにそ何れも大に醉ふたるが中にも度支部大臣の高永喜は年にも耻ず白髮頭を振り立て實に天下は太平にて候恩賜の杯身に取りて光榮云ふべからず成ろうことなら此の官妓も賜りたしと容姿艶たる一人の官妓の手を取りて巫山戲ながら秘苑の其處此處と鼻の毛を長ふして逍遙する中如何にせしか階より下に墜落し腰の邊りをイヤと云ふ程撲ちたれば起きも得上がらず藻搔き居りしを漸く扶け起したれば車に乘りて歸り目下或る醫師に就て療養中なるが世間には妓生と巫山戲て負傷したりとは云はず車上より轉落したりと云ひ居れりと

●大詐欺漢の處刑

滋賀縣眞塑町雨引村の者にて龍山老松町に居住し小野組に雇はれ土木請負の事務を擔當せし野中推弘が客年五月以降九千餘圓を費消し又水色外四驛の官舍建築請負工事中二千五百餘圓を詐取し又仁川馬山浦に於て自己が經營する工事に四千圓を盜用したることは既に詳報せしが昨日當地理事廳裁判所に於て重禁錮四月十五日罰金四圓監視六箇月に處刑せられたり

●亂暴なる淸國人

一昨日午後のこと黃州郡五金里居住洪建化（二十）と云ふ柴賣りが牛に柴を負はせて京城中署避馬洞通行中淸國人王周順方軒先きに松枝を突き當て多少の破損を蒙らしめたるが斯くと見たる王周順の立腹一方ならず直ちに洪化建の牽き居る牛を後ろより鐵棒にてシタゝカに毆り付けたれば牛は其の儘奔逸したるにぞ洪建化も王周順に其の不當を詰じりたるに此奴他の軒先きを毀し乍ら何を小癪な事を吐すかと矢庭に洪に打ち蒐りて顏面其他數ヶ所に微傷を負はせたる騷ぎに日巡査韓巡査驅け付けて取敢ねず洪を中署に連れ來り手當を加ね尙醫師をして來診せしめたるが洪の傷は輕微にて多少の醫療を加ふれば全治するに至るべく尙支那巡警も來合せて王には厚く說諭を加ね双方示談にて事濟みにせんことを提議したるを以て王より洪に醫療代三圓を交附することに落着して王は放還せられたり

薪炭　諸官衙御用達　京城旭町四丁目　眞下商店　電話九六八番

●舟板塀

愛米倉町と計りにて何のあたりかは知らねども姓名丈は確かに忘れもせぬ氏野春子とかいふ姥櫻の殘りし色香また失せやらぬ婦ありけりサテ此の婦容貌丈は十人並よりズット勝れ先づ以て京龍間にては五本の指に數へらるゝ程の頗る附きの逸物なるが朝夕の起き居から坐作の工合仕樂見ても素人とは見ゆず何れは昔忍ぼるゝツレ者の果とも察せらるゝが近所の噂に段々聞けば此の婦には立派か不立派かは知らねども何んでも仁川あたりにさる請負師の且那ありて人目の手前暫し此の邊鄙ある所に閑ひ置き時々來りては一夜の樂みに痴話喃々雲雨の滴れ幕を演じ居るとかソレにしても春子さんは仕合はせの身分だ羨ましいと近所の娘達の噂を聞くが儘に

●韓人の醉たんぽり

一昨夜本町一丁目の裏通鶯花亭の前に一韓人の泥醉して前後も知らず寢ね居るより巡回の巡査が引き起したるも更らに事事を辨へざるを以て警察署に連れ歸り昨朝醉の醒むるを俟つて其の氏名を聞くと本町一丁目のアイヱス商會の雇人李迂善といふ者なるが說諭の上放還せられたり

●板の間稼捉はらる

一昨日の午後六時頃高知縣人旭町三丁目井上末吉方の雇人小谷安太郎が旭町三丁目の三日月湯に至り入浴して扱衣類を着んとして押込を開き見ると藻ぬけの殼となり居るより其の由を湯番に告ぐると只今出て去りし男こそ怪しいといふより赤裸体の儘飛び出して出で行く男をモシ／＼と呼び立てたり然れども彼方の曲者は素知らぬ振して足早に逃げ行く折しも巡査が來かゝりて赤裸体男に呼ばるゝ者仔細わらんと其者を引留めたるより安太郎が追ひつき見れば果して己が衣類の上に安太郎の衣類を纒ひ居るより其の旨直ちに巡査に申告したるが此の圖々しき曲者は大分縣直入郡藏村の者にて本町七丁目の木村作次郎方に同居しせんざいを賣り歩行く佐藤勇（六十）といふ甲斐性なしなりしと

●中署管內邦人戸口

京城中部警察署管內邦人在住數は戸數六十九人口男百三人女八十六人合計百八十九人なるが職業の最も多きは玉轉し射的店等にして飲食店雜貨商之に亞ぐと云ふ

●伊東一座の町廻り

仁川歌舞伎座を打揚げ本町座に乘り込みたる伊東文夫の一座は昨日町廻りをなし各得意先きに手拭を配りたるが昨夜は松風村雨を演じたり

廣告

今般左記の處に事務所を設け一般訴訟事件の依賴に應ず
前東洋大學校師　日本法律學士　辯護士　木尾虎之助
事務所　京城元博覽會表門通孛洞六十四統二戸

內務省免許　產婆　藤井ハナ　京城永樂町三丁目

花柳病專門　十字病院　龍山老松町
院長　帝國醫科大學選科得業　望月憲磨
今般更に眼科部を設け最新式機械を設備し眼科全般の治療をなす若し夫れ技術巧拙に至つては乞ふ既往の治績に徵せられんことを

綿類一切販賣
弓打綿製造所　並ニ古綿打直し
各位益御淸榮の由奉賀候陳者弊店儀各位の御引立に預り日に增し繁榮に赴き候段難有奉深謝候就ては今回職人數名雇ひ入れ盛大に製造罷在候間續々御注文被下度奉願候敬白
京城永樂町二丁目一番戸　深堀商店

▲懇切なる通關▼
懇切を本旨として通關を取扱ひ迅速を特色として運送に從事致候間御用命奉願上候
京城南大門外吉野町　㊁運送店
▲迅速なる運送▼

開店御披露
會席御料理並に仕出し
右今般開店仕候大勉强を旨と致し候間賑々敷御光來之程奉願上候敬白
京城長谷川町二丁目五十番戸　開月亭

廣告
今二十五日（土曜日）正午奬忠壇に於て京仁南高同志懇親會を開催致候間南高人士萬障御繰合せ御賁臨の程希望致候
發起人　南高同志會
一會費　金一圓
一申込期日　四月二十三日
申込場所　京城本町二丁目　林田金次郎　電話六五番
京城本町三丁目　伊藤友松　電話四〇番
京城大和町　雜賀貞敏

●至急廣告●
パナマ帽　淡水帽　臺灣製帽合資會社製品
右今般韓國一手販賣特約候に付御便宜上御注文に相應じ取次卸賣可仕候間多少に不拘御用命被下度候
猶製品輸入の都合有之候に付き季節柄此際至急御申越し願上候
明治四十一年四月
製造元　臺灣製帽合資會社
韓國一手販賣所　京城三好町一丁目十三番戸（歌舞伎座隣）
電氣機械並に西洋家具製造販賣所　藤原商會　電話八百五十八番

夏物荷揃
新流行洋傘類
婦人用レース類
帽子、シャツ類
旅行用膝掛其他
京城本町　辻屋本支店　電話本店二四八番　支店三六六番

注意　近頃弊社の名義を用ひ各所に回りて染もの洗張等の注文を受け取り或は日限をれくらし甚しきに至ては誂の品物を返さへ知せざるものこれあり候の事に然に不都合の弊社注文品に對する責任を帶て物品の引換預券を取扱は御渡し申品物受授の間違なき樣致し居り候に有之候得ば該證券を渡さゝる者には斷然物品御渡し兼之樣弊社は定評ある通り御注意申上候守り物品仕揚げの精巧なる御誂の日限を賛ありて續々御注文願上候拜具
京城南山町二丁目伊藤組橫通　日韓染物合資會社　電話（百五十四番）

提灯製造　並張替及瓦斯燈書替へ
弊店は業務確實にして仕事叮嚀なり
京城本町理事廳前裏通　藤井提灯廛

待合貸席　青山　京城南山町二丁目
桃や櫻の花は今を盛りと咲き亂れ柳は綠り青山の眺は得も云はれぬ折柄世の粹客樣方御散歩のつれ／＼是非に駕を枉させられたしとなん

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓
株式會社 十八銀行 京城支店
京城南大門通(電話四二〇)
本店 長崎市築町
支店出張所 韓國 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山 日本 大阪、熊本、佐世保、厳原、五島、壹岐
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候(利息日歩壹錢四厘)
長崎貯蓄銀行代理店(十八銀行京城支店)

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店(電話五八番)
爲替取組先
畿内 二十七ケ所 東山道 十三ケ所 山陽道 七十五ケ所 南海道 二十三ケ所 北海道 五ケ所 臺灣 二ケ所
東海道 二十八ケ所 北陸道 十ケ所 山陰道 十三ケ所 西海道 三十ケ所 韓國 九ケ所 清國 一ケ所

一各種石炭大販賣
大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御届け可申上候
三池粉炭
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等
三井物産合名會社
京城出張所(電話二十六番)
仁川出張所(電話六十三番)

夏物新着荷大賣出し
空氣呼鈴並に室内電話
斬新流行の洋傘やねくたい其の他歐米雜貨各種荷着致し候間御觀覽旁々當店へ御來店有られん事偏に乞願奉り候敬具
韓國京城本町六丁目
歐米雜貨商 中塚支店

業務擴張廣告
營業科目
◉訟訴鑑定、契約起案、諸會社定款ノ作成
◉諸願屆書及登記書類ノ代書
◉金錢貸借、土地家屋賣買、電話賣買
◉諸鑛山ノ賣買及測量製圖設計
當事務所從來家屋狹隘の爲各位不便少からず候處今般更に事務所を擴張し最も迅速確實を旨とし御高需を次第依頼に應じ可申候
京城本町一丁目(南部警察署前)
法學士 小川勝平法律事務所
電話四一番

開業廣告
○内科 ○外科 ○眼科
○婦人科 ○小兒科 ○花柳病科
今般左記之處に於て開業致し懇切と叮嚀を旨とし一般患者の診療に應す
京城南大門外御成町
院主 吉田三省
吉田病院

齒科全般の治療
米國最新式義齒
京城本町六丁目(藪そば横町)
米國齒科醫學博士 女醫 中村安子

●社員募集
一社員(商業ニ經驗アル者) 若干名
一女子事務員(二十歳未滿) 二名
一給仕(十四五歳ノ者) 二名
但シ確實ナル保證人ヲ要ス
右至急入用に付應募者は午前中に本人來社ありたし
京城南山町三丁目
東洋貿易株式會社京城支店

拾有八年の實驗 最新學術の應用
齒科醫 勳六等 楢崎東陽
京城南山町三丁目(日本人倶樂部向)

日本澤庵 味噌醬油製造 乾物荒物鑵詰 銘茶食料雜貨
漬物問屋 京城本町五丁目 大上商店(電話二五一番)

梅毒癩病
内科 外科
入院隨意
京城南大門外 戸田病院

小兒科 内科 梅毒科
入院隨意
京城壽町三丁目 阪井病院(電話二一六番)

營業科目
活版活字鑄造 石版銅版 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 罫線簿 製本裝釘
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕候間倍舊ノ御愛顧之程奉願上候也
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

松丸太
松材 松薪 材木一切並ニ柳材類
弊店所有の松山より伐り出しに付大勉強可仕候間多少に不拘御用命の程奉願上候
廟浦孔德里大院君墓地
伐材出張事務所

和洋雜貨類
和洋文房具卸小賣
測量製圖器械尺度類
最新式京華[illegible]寫眞版發賣元
諸官衙御用達
京城本町郵便局前
ノサキ香店
電話六四八番

謹告
エジプト莨及マニラ葉巻其他煙草類各種 西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶
謹告在韓清國人
大連 安徽 頭彩 金壹萬圓 第三十一次(陰暦四月十日 清五月十日) 第十六次(陰暦四月二十日 清五月廿日)開彩
湖北 頭彩 金五萬圓 第七十六次(陰暦四月廿七日 清暦三月廿七日)
江南 頭彩 金壹萬圓 第十七次(陰暦四月十五日 清暦三月十五日)開彩
定價 湖北彩票全紙金七圓五拾錢 小切八拾錢 江南彩票全紙金七圓 小切七拾五錢 大連彩票全紙金壹圓參拾錢 安徽彩票全紙金壹圓參拾錢
西洋雜貨商 源源號
京城水漂橋二宮街

西洋御料理宴會
日本人倶樂部
京城南山町三丁目電話(一二三番)

高等下宿 日の出舘
京城明治町一丁目(漢城病院向筋入)
弊舘は設備完全にして最も閑靜なり
弊舘は叮嚀懇切を以て特色とす

經濟の親玉

◉夏帽子洗濯
如何程古びたる帽子にても新物同様になります
洗濯科目
パナマ摸造金九十五錢 本パナマ一個ニ付金一圓六十五錢 ダスカン一個ニ付金八十錢 麥稈一個ニ付三十五錢より四十五錢まで 白羅紗製一個金九十五錢 臺灣帽金三十五錢 但し現品御持參の御方樣には定價の三割引
右は御一報次第直樣店員差向け御用命に可應候
京城新町三丁目
小間物商 遠山商店
工師 遠山與五郎
出張員 菅谷武之助

韓國京城
株式會社 第一銀行
電話番號 營業用 一二番 國庫用 六二番 當直用 生 營業用三三二番 度支部用 分析所用 六二二番
本店 東京市日本橋區兜町
内地支店、出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店、出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、平壤、木浦、大邱、開城、成興、城津、馬山、鏡城
清國安東縣
右の外内外各地重要なる場所には爲替取引先あり
營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

訴訟、鑑定、契約起案、諸願屆、登記書類代書、土地家屋賣買、金錢貸借、電話賣買等の周旋
京城本町一丁目警察署前
法學士 小川勝平事務所
電話四十一番

日本郵船株式會社(電話十番)
瀛船仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕會 電話三九番
京城南大門通 巴商店 電話三〇六番
●釜山長崎門司神戸行 山東丸 五月十日 後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 第一オハヨ號 五月一日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 五月十四日 前五時出 山東丸 四月廿八日 後一時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 四月廿五日 後一時出
●鎭南浦行 第一オハヨー號 四月廿八日 後三時出
●釜山出帆、元山城津、浦鹽行 弘前丸 五月廿日
注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船揚場ヘ